

# 2023 年度事業報告書

特定非営利活動法人ダイバーシティサッカー協会

## I 事業期間

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

## II 事業の成果

2023 年度は、ダイバーシティ・リーグの本格実施とダイバーシティサッカー・フェスティバルの開催を通じて、「仲間はずれを生まない」場づくりのノウハウの蓄積およびサッカーを通じた居場所づくりを行う団体のネットワーク拡大という成果をあげることができた。

とくに関東でのダイバーシティ・リーグには参加希望が多数あり「すべての回に参加したい」という要望もあるほど、意欲的な団体や当事者が多かった。2020 年 2 月のダイバーシティ・ミニ・カップ以来の大規模イベントとなったダイバーシティサッカー・フェスティバルは、従来のダイバーシティカップをアップデートした形で開催することができた。スポーツを通じた日常的な居場所から、数ヶ月に一度の定期的な交流の場、年に一度の晴れ舞台という国内での段階的なプログラムの形成につながった。

また、東西の野武士ジャパンの練習会の参加者は増加傾向にあり、大阪ではスポーツ体験会という形で、新たな参加者の裾野を広げることができた。大阪の高槻や香川での新たな居場所の立ち上げのサポートやリカバリーの学校@くにたちとの連携、ホームレス・ワールドカップへの日本代表再派遣に向けた準備など、新たな事業の土台となる活動も生まれた一年だった。

### 1 野武士ジャパン運営サポート

NPO 法人ビッグイシュー基金と協働して、ホームレスの当事者が中心のチーム「野武士ジャパン」の東京・大阪での通常練習（各月 2 回）の運営協力を行った。参加者はホームレスの当事者・経験者に加え、スタッフ、ひきこもりや不登校の経験者、ボランティアなどで、東京で計 16 回のべ 239 人（各回約 15 人）、大阪で計 16 回のべ 295 人（各回約 18 人）が参加した。参加者が増加傾向にあり、大阪では最大 35 人、東京では最大 20 人が集う回もあった。

通常練習に加え、東京チームは、11 月 3 日にまきばフリースクールが開いた「MK B カップ」に昨年に引き続き出場し、ミックスリーグで優勝した。遠征に伴うレンタカーの手配や現地への移動などのサポートを行った。

オンラインでエクササイズを行うリモートワークアウトプログラムについても継続的に行い、計 14 回、のべ 52 人が参加した。新型コロナウイルスの影響が比較的減少し、また参加人数が限定的なこともあり、2023 年 12 月を最後の開催とした。持ち運びできるパソコンとポケット Wi-Fi の貸し出しを継続し、上記エクササイズやミーティング、普段の練習に関するコミュニケーションに利用された。

後述するダイバーシティリーグやフェスティバルに関連して、当事者を中心にチームビルディングや運営のサポートなどを考える機会を設け、より主体的な参加を促した。

### 2 スポーツ体験会の開催

大阪コミュニティ財団より助成を受け、野武士ジャパン大阪チームの練習会の参加者を対象に、多様なスポーツに触れる機会を提供するスポーツ体験会を開いた。全 5 回の活動で、63 人が参加した。

定例の練習会の前に実施し、キャッチボールやペタンク、モルックやベースボール 5 といったスポーツに挑戦した。キャッチボール以外のスポーツについてはほぼすべての参加者が初めての経験で、優劣の差が出ていくく失敗も含めて楽しむという雰囲気があった。

これをきっかけに体験会以外の場でも実施の希望があり、日々の活動に取り入れられるという効果があった。

### 3 新たな居場所の立ち上げサポートや他団体とのコラボレーション

スポーツを通じた新たな居場所の立ち上げサポート活動として、香川県高松市を中心に 10 代の居場所づくりや若者の就労支援を行う一般社団法人 hito.toco とサッカーを通じた交流活動のサポートを行った。2 回の練習会のコーディネートのほか、スタッフを対象にした研修会を実施し、当事者と支援者を合わせてそれぞれ 14 名(5/31)と 12 名(10/19)の参加があった。12 月 7 日には練習会が自主開催され、13 名が参加したと報告があった。

また、高槻市内で子ども食堂を開く団体と協働し、食堂に参加する子どもたちやその保護者を対象としたフットサル交流会の開催をサポートした。第 1 回は高槻市内のフットサルコートで開かれ、会場費やサッカープログラムの実施の面で応援をした。第 2 回は地域の公民館で開催され、午前中のサッカープログラムの実施のサポートを行い、午後の食事の配食も手伝った。合計でのべ 41 人が参加し、次年度以降の継続的な開催が希望されたほか、他地域が実施されるダイバーシティリーグなどの参加にもつながった。

生きづらさを抱えた人たちやそれを支える人たちが、語りや対話を通じて「自分らしく生きる」ことを相互に学び合う連続講座「リカバリーの学校@くにたち」とのコラボレーションで、一橋大学内でダイバーシティサッカーの体験会を実施した。国立市内で活動する知的障害や精神障害を持つ方を支援する団体や当事者が参加し、全 3 回でのべ 82 人が参加した。

その他、楽天グループ株式会社からの寄付を活用して、各地のパートナー団体やサポートするチームなど 9 団体にゴールやシューズ、ボールなどのサッカー用品を提供した。

### 4 フットサル交流会「ダイバーシティリーグ」の開催

昨年度に引き続き、多様な背景や困難を抱える当事者やその支援者が、チームとして定期的に対戦し交流する「ダイバーシティリーグ」を開催した。「スマセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム」のアドバンスコースの助成を受け、東京・大阪・宮城で計 11 回行い、のべ 601 人が参加した。

東北では、宮城県内で子どもや若者を支援する「NPO 法人まきばフリースクール」がホストとなり、第 1 回(7 月 22 日)、第 2 回(11 月 3 日)、第 4 回(2 月 17 日)のリーグ戦を開催した。仙台や石巻周辺で若者支援やうつ病の人の就労を支援する団体、まちづくりを行う団体などが参加したほか、第 2 回は MKB カップという名称で 200 人が集う大会として行われました。第 3 回目は、過去のダイバーシティカップに参加者と連携し、11 月 11 日に福島県郡山市の BLUE STADIUM で開催した。精神障害があったり、不登校の経験のある人やその支援者など、11 人が参加した。

関東では、これまで連携してきたパートナー団体に加え、都内で若者支援を行う団体などにも新たに参加を呼びかけ、10 月～1 月にかけて全 4 回のリーグ戦を実施した。体を使ったアイスブレイクや総当たりでの対戦に加えて、各チームでもっとみんなが楽しみやすくなるようなルールを考案し、それを相手チームと交渉しお互い合意したルールで対戦するなどの試みも実施した。コート の BGM が止まっている間は全選手が停止する、ウォーキングフットボール、ボールを保持できるのは 6 秒以内、2 タッチ以内にパスなどのルールが採用された。参加者の満足度は非常に高く、毎回のリーグ戦に参加を希望する団体もあった。

関西では、9 月、12 月、2 月に全 3 回のリーグ戦を実施した。具体的には、昨年度実施したリーグ戦をベースに、連携するパートナー団体がそれぞれホストとなり、参加者の募集やコーディネートを行い、当協会 はプログラムの実施や会場の確保などの準備を担った。体を使ったアイスブレイクや総当たりでのリーグ戦のほか、子どもが参加する回も複数あり、ウォーキングフットボールなど、体格差や経験差が出にくい形で対戦するなどの工夫も行った。また、新たにサッカーを通じた居場所づくりの立ち上げのサポートをした高槻市内の子ども食堂の利用者やその保護者などが参加するなど、日常の居場所からリーグ戦へのつながりも生まれた。3 月に予定していた滋賀でのリーグ戦は雨天延期となり、翌年度の開催を調整した。

### 5 ダイバーシティサッカー・フェスティバルの開催

3 月 9 日、フットサルプラザ BumB で、東北や関東、関西でのリーグ戦の参加チームが集う祭典「ダイバーシティサッカー・フェスティバル」を開催した。当日は、リーグ戦参加チームに加え、ホームレス・ワールドカップ元韓国代表選手らによるチームなど、合計 14 団体、16 チーム、およそ 200 人が参加。遠方から参加したチームは前日に会場入りし、前夜祭的に交流もした。

開会式では、プロの講談師に指導も受けている「野武士大阪」のメンバーが、「ダイバーシティサッカー」をテーマにオープニング講談を披露した。参加者全員でのウォーミングアップののち、午前中はほぼ通常通りのフットサルルール部門と特殊なルールの提案も可能な部門の2つのカテゴリーごとに、4つのグループリーグの総当たりで対戦した。ハーフタイムショーとして、路上生活経験者によるダンス集団「新人Hソケリッサ！」によるパフォーマンスも行った。

午後はリーグを再編し総当たりで対戦し、最終的な順位を出して表彰したほか、閉会式では、お互いを尊重したり、チームとして楽しんだ個人やチームを表彰する特別賞などの表彰も行った。また、チームごとのふりかえりも実施し、チーム内でのMVPを決めたり、自身やチームメイトのよかった点を共有することも行なった。

協会主催イベントとしては、過去最多の参加チーム数で、海外からのチームの受け入れもあるなど、多彩で賑やかなお祭りのイベントを開催できた。特に、リーグ戦で対戦したチームと再会し、リベンジに燃えるなど、リーグ戦から年に一度の大きな大会という接続が生まれた。加えて、在日ミャンマー人のチームなど、リーグ戦には不参加でこれまでリーチできていなかった団体の参加があり、かつそれらのチームによって生み出される雰囲気、大会の趣旨をより広く体現する結果になっていた。

## 6 ホームレス・ワールドカップ関連事業

2024年度のホームレス・ワールドカップに日本代表チームを派遣することを目指して、本大会の視察やHomeless World Cup Foundationのスタッフとのやりとり、新たな代表選手資格の検討委員会の開催などを行った。

新型コロナウイルスの影響で開催中止が続いていたホームレス・ワールドカップが4年ぶりに開催されることとなり、開催地であるアメリカのサクラメントへ視察に赴いた。大会は2023年7月8日～15日に開かれ、アメリカでの開催は初めてだった。選手にビザが発給されず不参加となった国もあったが、31カ国から男女合わせて40チームが参加。男女ともに決勝戦はチリとメキシコの対決となり、男子はチリ、女子はメキシコが優勝した。日本代表チームは今回も不参加であったが、アジア各国が集う会議への参加、韓国チームや本部スタッフとの情報交換などを行った。

2024年度のホームレス・ワールドカップの開催が韓国・ソウルとなったことを受けて、日本代表チームの派遣に向けた事務局をビッグイシュー基金の協力も得て発足し、ファンドレイズの計画や連携団体へのヒアリングを実施。加えて、学識者や支援団体代表者などで構成される「ホームレスW杯日本代表チームの派遣に伴う選手資格の検討委員会」を開催した。その結果、ビッグイシュー誌の販売者や路上生活経験者が中心だった代表選手から、より広義の不安定居住という形でhomeless状態を再定義し、生活困窮者支援や若者支援を行う非営利団体が提供する住居で生活している人や依存症からの回復施設で生活している人なども代表選手資格があるという方針を確認した。

## 7 調査・研究・広報

ホームページを中心に、X（旧Twitter）、Facebook、InstagramなどのSNSを通じた発信を継続した。また、シンポジウムの登壇や新聞、ラジオ、雑誌などのメディアを通じた活動の紹介も行なった。

2023年度の活動をまとめたアニュアルレポートは、インターン生の協力を得ながらライティングやデザインを進め、4000部を発行。直近の活動を報告するニュースレターとともに、寄付者や関係者に送付した。

調査・研究では、スミセイコミュニティスポーツ推進助成プログラムの助成を活用し、社会学者の伊藤康貴氏（大手前大学）の協力のもと、大阪のサッカーの活動に参加するひきこもり・不登校の経験者やその関係者を対象にしたインタビュー調査の分析等を行った。加えて、各地のリーグ戦やフェスティバルにも参加いただき、次年度以降のモニタリングや調査方向のための準備をした。

### <メディア掲載一覧>

05/01：COMVO（コンボ）5月号「NPO団体 リアルレポート」

01/09：しんぶん赤旗「楽しさが『壁』切り崩す 多様な人参加のスポーツ考える NPOがシンポ」

01/15：体育の科学 第74号「ホームレス・ワールドカップを考える」

03/15：しんぶん赤旗「” 違い” 超え みんなが選手」

03/23：TBS ラジオ「まとめて！土曜日」

### Ⅲ 事業の実施状況

#### 1 特定非営利活動に係る事業

##### (1) スポーツや文化・芸術活動を通じた居場所づくり応援事業

(内容)

###### ・野武士ジャパン運営サポート

毎月第2、第4土曜日に東京（@住吉公園、9:30-11:30）と大阪（@扇町公園、18:00-20:00）で、ホームレス状態の当事者・経験者が中心のチームの通常練習の運営をサポート。東京で計16回のべ239人、大阪で計16回のべ295人が参加した。

###### ・オンラインプログラムと環境整備

オンラインでのエクササイズプログラムを実施。また、昨年度より始めたパソコンと通信機器の貸し出しを継続した。エクササイズプログラムには、計14回、のべ52人が参加した。

###### ・多様なスポーツに触れる機会を提供するスポーツ体験会

04/22：キャッチボール体験会@扇町公園（14人参加）

06/24：ペタンク体験会@扇町公園（8人参加）

08/26：モルック体験会@扇町公園（8人参加）

09/09：モルック体験会@扇町公園（8人参加）

02/10：Baseball15体験会@扇町公園（25人参加）

###### ・新たな地域での居場所立ち上げサポート

一般社団法人 hito. toco の香川県内でのサッカーを通じた居場所作り

06/01：フットサル交流会@高松市牟礼総合体育館（14人参加）

10/19：スタッフ研修会&フットサル交流会@高松市牟礼総合体育館（12人参加）

高槻市内の子ども食堂「えん食堂つむぎ」および「桜台みんな食堂」に居場所立ち上げ

11/26：フットサル交流会@高槻フットサルパーク（26人参加）

03/03：フットサル交流会@高槻市堤コミュニティセンター（15人参加）

リカバリーの学校@くにたち

09/24：ダイバーシティサッカー体験会@一橋大学（24人参加）

10/29：ダイバーシティサッカー体験会@一橋大学（28人参加）

03/02：ダイバーシティサッカー体験会@一橋大学（30人参加）

###### ・楽天グループ株式会社からの寄付を活用したサッカー用品の提供

各地のパートナー団体やサポートするチームなど9団体にゴールやシューズ、ボールなどのサッカー用品を471,614円分提供

###### ・個人で参加できるフットサル交流会「ダサ Co-Sal キャラバン」

事務局の人員不足やリーグ戦等の開催を優先した結果、年4回計画していた個人参加型のフットサル交流会については実施できなかった。

(収 益) 0円

(費 用) 1038847円

(2) ダイバーシティサッカー大会（国内事業）

（内容）

・ダイバーシティリーグの開催

定期的なフットサル交流会「ダイバーシティリーグ」を東京・大阪・宮城で計 11 回開催。

東北 07/22：第 1 回@セイホクパーク石巻（約 60 人参加）

11/03：第 2 回（MKB カップ）@グリーンピア岩沼（約 200 人参加）

11/11：第 3 回@BLUE STADIUM（11 人参加）

02/17：第 4 回@ワッセ仙台（50 人参加）

関東 10/28：第 1 回@フットサルプラザ BumB（40 人参加）

11/25：第 2 回@ミズノフットサルプラザ調布（52 人参加）

12/23：第 3 回@COSTA 横浜（33 人参加）

01/27：第 4 回@ミズノフットサルプラザ BumB（36 人参加）

関西 09/30：第 1 回@キャプテン翼フィールド in LINKS UMEDA（25 人参加）

12/10：第 2 回@もりのみやキューズモール内のフットサルパーク（48 人参加）

02/24：第 3 回（北芝杯）@萱野小学校体育館（46 人が参加）

03/24：第 4 回（たぬき杯）@ピエリ守山での実施予定は雨天延期に

・ダイバーシティサッカー・フェスティバルの開催

東北や関東、関西でのリーグ戦の参加チームが集う祭典「ダイバーシティサッカー・フェスティバル」を、フットサルプラザ BumB で開催した。当日は、リーグ戦参加チームに加え、ホームレス・ワールドカップ元韓国代表選手らによるチームなど、合計 14 団体、16 チーム、およそ 200 人が参加。

（収 益） 0 円

（費 用） 1953358 円

(3) ホームレス・ワールドカップ（国際大会）など海外大会への選手派遣事業

（内容）

・ホームレス・ワールドカップの視察

2023 年 7 月にアメリカのサクラメントで開催されたホームレス・ワールドカップを視察

・「ホームレス W 杯日本代表チームの派遣に伴う選手資格の検討委員会」の開催

3 月 4 日、関西学院大学梅田キャンパス及びオンラインで、検討委員会を開催した。事務局に加え、委員として下記が参加。

|        |   |
|--------|---|
| 稲葉 剛   | 認定 NPO 法人ビッグイシュー基金<br>共同代表 一般社団法人つくろい東京ファン ド 代表理事<br>立教大学 大学院社会デザイン研究科 客員教授 |
| 岡田 千あき | 大阪大学 大学院人間科学研究科 教授  |
| 岡部 茜   | 大谷大学 社会学部 講師<br>NPO 法人ダイバーシティサッカー協会 理事                                      |
| 白波瀬 達也 | 関西学院大学 人間福祉学部 教授  |
| 鈴木 直文  | NPO 法人ダイバーシティサッカー協会 代表理事<br>一橋大学 大学院社会学研究科 教授                               |
| 蛭間 芳樹  | 株式会社日本政策投資銀行<br>認定 NPO 法人ビッグイシュー基金 理事<br>NPO 法人ダイバーシティサッカー協会 理事             |

・連携団体へのヒアリング

選手派遣に協力を得られる可能性のある 7 団体にホームレスワールドカップに参加する意義等についての聞き取りを実施。

(収 益) 0 円

(費 用) 20440 円

(4) 調査・研究・広報事業

(内容)

・アニュアルレポート発行

活動報告書『2022 年度アニュアルレポート』を 4000 部発行し、寄付者や関係者に送付

・パートナー団体調査

伊藤康貴氏（大手前大学）と打合せを毎月開催

・イベント登壇

1 月 17 日に第 12 回スポーツ文化シンポジウムに鈴木直文代表理事と竹内佑一理事が登壇

・その他

HP の運用、ニュースレターの送付、アンバサダー・協力団体との打合せ、各種メディアへの取材対応や記事執筆、SNS での情報発信などを適宜実施

(収益) 0 円

(費用) 405231 円

IV 社員総会の開催状況

2023 年度通常総会

(日 時) 2023 年 6 月 6 日 21 時 00 分から 22 時 00 分

(場 所) 議長自宅およびオンライン開催 (Zoom を使用)

(社員総数) 13 名

(出席者数) 9 名 (うちオンライン出席 8 名)

(内 容) 第 1 号議案 任期満了に伴う役員の変更

第 2 号議案 2022 年度事業報告・決算案の件

審議の結果、参加社員の挙手評決により可決

第 3 号議案 2023 年度事業計画・予算案の報告

第 4 号議案 議事録署名人の選任の件

V 理事会その他の役員会の開催状況

2023 年度第 1 回理事会

(日 時) 2023 年 6 月 6 日 20 時 00 分から 20 時 59 分

(場 所) 議長自宅およびオンライン開催 (Zoom を使用)

(理事・監事総数) 理事 6 名 監事 2 名

(出席者数) 理事 6 名 監事 1 名

(内 容) 第 1 号議案 2022 年度事業報告・決算案の件

審議の結果、参加理事の挙手評決により可決

第 2 号議案 2023 年度事業計画・予算案の件

審議の結果、参加理事の挙手評決により可決

第 3 号議案 議事録署名人の選任の件

2023 年度第 2 回理事会

(日 時) 2023 年 9 月 28 日 20 時 00 分から 22 時 00 分

(場 所) 議長自宅およびオンライン開催 (Zoom を使用)

(理事・監事総数) 理事 6 名 監事 2 名

(出席者数) 理事 5 名 監事 1 名

(内 容) 第 1 号議案 昨年度の業務委託契約の追認の件  
審議の結果、参加理事の挙手評決により可決

第 2 号議案 今年度の業務委託の件  
審議の結果、参加理事の挙手評決により可決

第 3 号議案 2023 年度の事業経過及び今後の活動計画の報告

第 4 号議案 議事録署名人の選任の件